

# 「中国四国地域の国産大豆の活用拡大に向けた意見交換会」概要

開催日時：令和3年2月24日（水）14：00～16：00

開催形式：Zoomを用いたWeb会議形式

参加者：約50名（生産者団体、食品製造事業者、研究機関、地方自治体等）

## 【概要】

### 1. 開会

中国四国農政局 松岡局次長から、開会の挨拶。

### 2. 講演

- (1) 農政局から、資料「大豆をめぐる事情」に沿って、全国及び中国四国地域の大豆の現状について説明があった。
- (2) 互明商事株式会社 松川氏から、資料「国産大豆の需要と活用拡大に向けて」に沿って、実需者側からの国産大豆への期待することや流通・卸売り現場からの課題について、ご講演をいただいた。

### 3. 意見交換・質疑応答

(事務局) 大豆に係わる社会的な情勢や新型コロナウイルス感染症の消費に与える影響の大きさ等について、わかる範囲でお教え願いたいのですが。

(松川氏) 昨年から大変な状況が続いておりますが、特に外食産業は大きな打撃を受けているという報道も連日のようにあります。しかしながら、業務用の消費は落ち込んだものの、豆腐や納豆、豆乳等の家庭用ニーズが高い大豆製品は、巣ごもり需要でスーパー等での消費が堅調だったかと存じます。特にこのような情勢の中で、手に取る食材を中心に非常に健康に留意されていると思います。関係者と意見交換する中で、国産原料を使った商品の売上げが伸びていると聞いております。しかしながら、国産大豆はここ2年間不作が続いているので、入札価格が高騰しています。国産ニーズは高いものの、コスト面で苦慮されており、不作で十分な供給量を確保できない等の問題を抱えております。大豆はありがたいことに個人消費もありますので、業務用の消費の落ち込みもありますが、需要量はほぼ変わっていないという見解です。

(事務局) 当局では流通経費が高くなっている現状を踏まえ、地場産農産物の供給力拡大プロジェクトを立ち上げております。野菜では、一度大消費地に出荷後され、そこから産地の近くの地方都市へ戻ってくるという非効率な流通の動きがあり、コロナ渦でこの非効率な面がクローズアップされたと考えています。大豆に関しては、産地の近隣県での需要を拡大していく余地はあるのでしょうか。

(松川氏) 中国四国地域は全国と比較して、大豆の生産が少ない状況が続いておりますが、当地域でも有力な大豆のメーカーがあります。そういった方から、自分たちの拠点の近くで大豆生産が安定的に行われる事は非常にありがたいと聞いています。流通コストは上がってきており、産地は北海道に拠点を置いているものの、中四国まで運搬するとコストもかかるので、生産を拡大していただくとメーカーの方も使いやすいと思います。是非、中四国でも安定供給に向けて生産を拡大していただきたい。

(事務局) 参加者の中に大豆の育種等の研究に携わっておられる方がいらっしゃいましたら、大豆品種の育成方針や技術等をご紹介いただけないでしょうか

(参加者A (研究関係)) 大豆は多収性品種の育成を重視しています。国産大豆同士の育成だと、なかなか飛躍的な単収の向上は望めないのが、海外（主にアメリカ）の多収性を導入できるよう系統開発を進めています。比較的多収性がありそうな系統開発も進めておりますので、今後はたんぱく質含量を上げ、加工適性を付与させた上で品種化を目指したいと考えています。

(事務局) 産地サイドからは、安定供給に向けた産地の課題や取組について教えていただきたい

す。

(松川氏) 産地を訪問する中で感じたことについて、麦・大豆のブロックローテーションがありますが、農業効率を上げる中で大豆の播種・収穫時期が他の作物と重なってしまうため、大豆が選択されにくいということも伺っています。そういった要因等、大豆生産が拡大しにくい理由を教えてください。

(参加者B (県関係者)) 当県では、黒大豆、白大豆とも面積減少傾向、集落営農等で生産されているものの、水稲と栽培時期が重なり、栽培の手間がかかることから選択肢として選ばれにくいのです。H30、R1 と夏季高温・干ばつで収量が悪く、また外来アサガオ類等の対策もネックになっています。米の需給関係もあることから、補正予算の麦大豆プロ等も活用しながら大豆等へ転換を図って行きたいところです。

(事務局) 大豆の品質について、加工度が高いものなら粒がそろわなくても問題無いように思えますが、いかがでしょうか。

(松川氏) 粒度の差は例えば煮豆だと外観品質、加工度の高い味噌でも一度蒸してから使う関係で煮えムラ等に影響します。やはりある程度の粒径がそろっていることが望ましいです。

(参加者C) 中国四国地域の今後の増産の見込みと方法を教えてください。

(事務局) 松川様のお話にもありましたとおり、大豆と水稲は生育時期が重なってしまいますが、中国四国地域では、主食用米については実需者が求めている量が来ていないという状況で、「大豆を作るぐらいなら先ずは米を作りたい」という声も聞きます。他方で、全国的な需給状況をみると、主食用米を作りすぎて価格が下落するのではないかという懸念もあります。そういった中で、松川様のご講演のとおり、大豆は実需者からの需要もしっかりとありますので、大豆の生産を選択肢の一つとしていただければと思います。非常に課題が多く、一言で解決策を申し上げる事は難しいですが、国も様々な予算で応援しておりますので、予算をご活用いただきながら農業者の方々には是非大豆を作っていただけるように願っているところです。

(参加者D) 中国地方の中山間地域だと、小規模な生産者の方も多いのですが 新品種の導入の際の安定供給の際の最低どの程度のロット (トン) が必要なのでしょうか？

(松川氏) ある程度メーカーの方に使っていただくには、200t~300t、数百t 規模で必要になってきます。また、中山間地域ですと生産量も確保しにくいと思いますが、生産側は新品種の導入についてどのように考えているのでしょうか。

(事務局) 松川様のお話にもありましたが、産地でのフレキシブルコンテナ (フレコン) の利用状況や今後の利用拡大について教えていただければ幸いです。

(参加者B (県関係者)) 当県では生産者ごとにまちまちですのでわかりません。大型農家はフレコンなのではないでしょうか

(参加者E (県関係者)) フレコンバッグの利用については、当県では現状ございません。また、販売先からの要望等もない状況です。本県、大豆の生産は少ない県で、その中でも比較的多く生産しているのは、集落営農法人等になります。

(参加者D) 参加者間のコンタクトについては、契約栽培のようなものを想定されているのでしょうか？また、今回の意見交換会参加者なのか、ある程度中長期的に実施していく予定なのか、教えていただけないのでしょうか？

(事務局) 本日の意見交換会に参加いただいた方同士のコミュニケーションのきっかけとなるのが目的ですので、契約栽培等重く受け止めずに、先ずは顔繋ぎ程度の気軽なものからでも構いません。

(参加者E) 中四国の令和元年産の収穫量は5,020 トンとありましたが、2年産の数量は如何でしょうか。3年産の作付面積は増加されるのでしょうか。

(事務局) お答えできる資料が手元にご覧できませんので、今後、当局のホームページの大豆の資料

にそのような情報も掲載出来ればと思います。

(参加者F) 面積の拡大について、品質の選別に時間がかかることから生産が敬遠されています。なにか手立てはありますでしょうか？

(事務局) 今回の大豆の意見交換会のように、麦類の意見交換会を開催した際に、一産地で生産するのではなく、安定的に供給するために、産地間でうまく連携出来ないかというご意見がありました。中山間地域だと難しい面もあるかと思いますが、産地間で同一品種を栽培することについては、松川様が実需サイドから見てどのように考えられるでしょうか。

(松川氏) 各JA単位の生産まではわかりませんが、小規模農家の方には栽培から調整まで行うのはかなり難しいと思います。市町村や県を超えて連携できれば大豆生産の拡大につながると思います。各都道府県単位で品質等の検査態勢がとられているようですが、その垣根を超えて大型設備のある所に大豆が持ち込まれ、選別出来るようであれば、効率化できると考えます。産地には是非、連携のご検討をいただきたいです。

(松川氏) 大豆の生産拡大について、日本の大豆生産量は世界と比べると低水準で、栽培体系についても水田栽培や中山間地域が多い等のハードルがあります。国産大豆の単収が上がらない要因は何が大きいのでしょうか。季節要因や土壌の問題などもありますが、品種について有力な多収性を見込めるというのはゲノム解析等でわかるのでしょうか。

(参加者A(研究関係)) 単収が上がらない要因について、品種のポテンシャルは試験場レベルでは比較的上がってきているものの、現場で実際に栽培したときはなかなか収量が上がりません。産地ごとに事情が違うので一概には言えませんが、よくあるのは地力の低下や雑草の問題、排水対策などです。何が一番の阻害要因になっているかを産地ごとに押さえて、対策を講じる事が非常に重要だと考えます。多収性品種につきましては、鋭意進めております。比較的、ゲノム解析も進んでいます。単収が300kg~400kg/a以上のポテンシャルをもっており、現場でも200kg~300kg/aの収量が見込めるようなものを開発目標にしていますが、何年後には実用化出来るという段階まではなっていません。

(参加者G) 中四国地域で大豆について大規模生産者や農業法人は増えていますか？

(事務局) お答えできる資料が手元にございませので、今後、当局のホームページの大豆の資料にそのような情報も掲載出来ればと思います。

#### 4. 閉会

中国四国農政局 福嶋生産部長から、閉会の挨拶。

以上